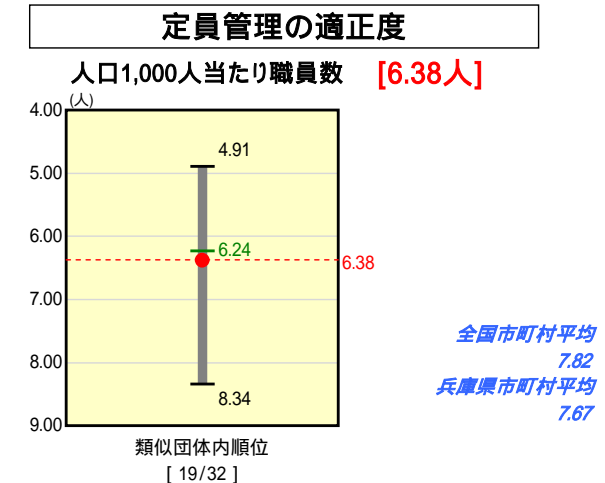
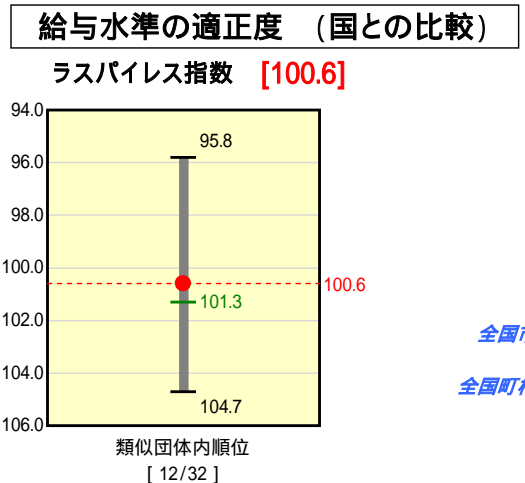
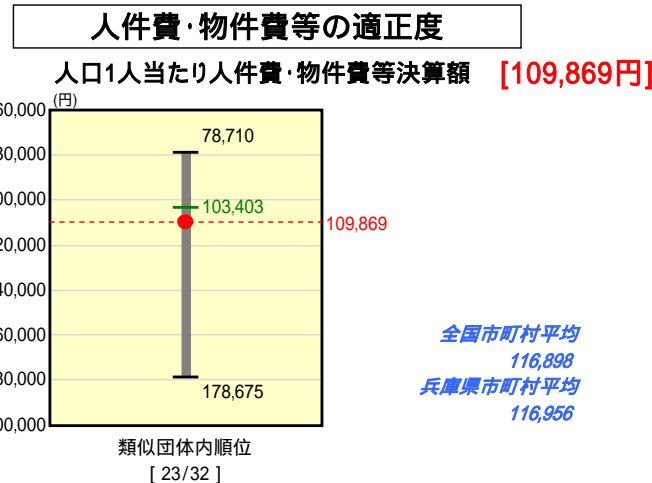
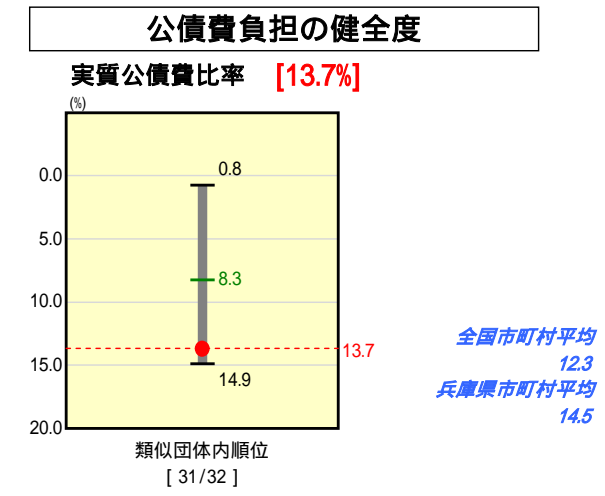
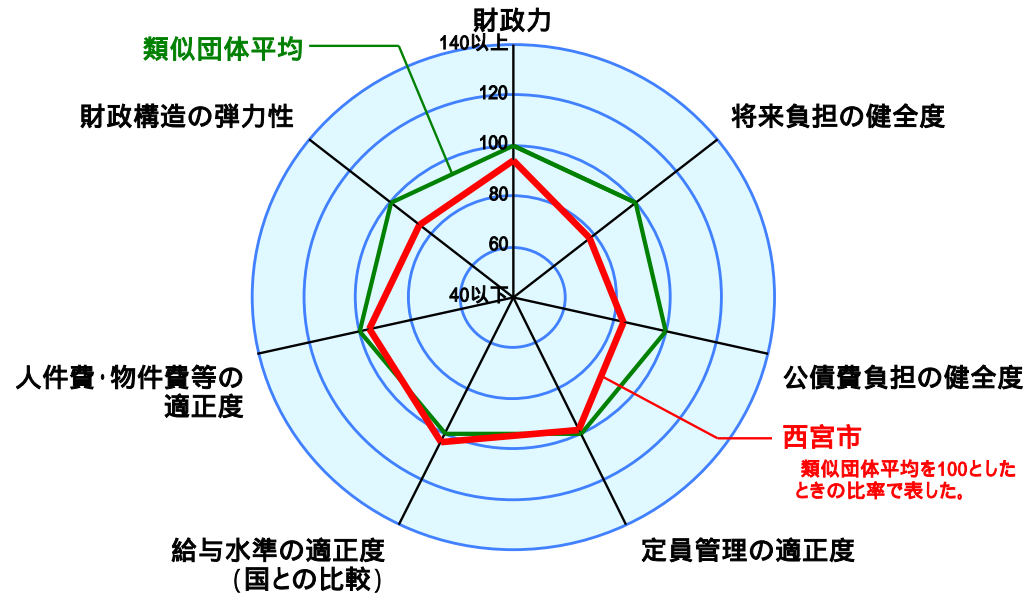
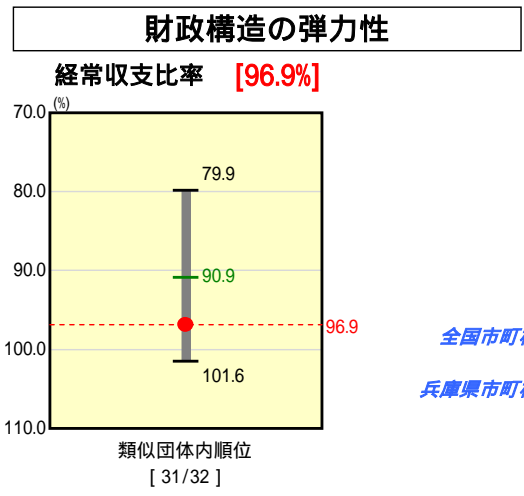
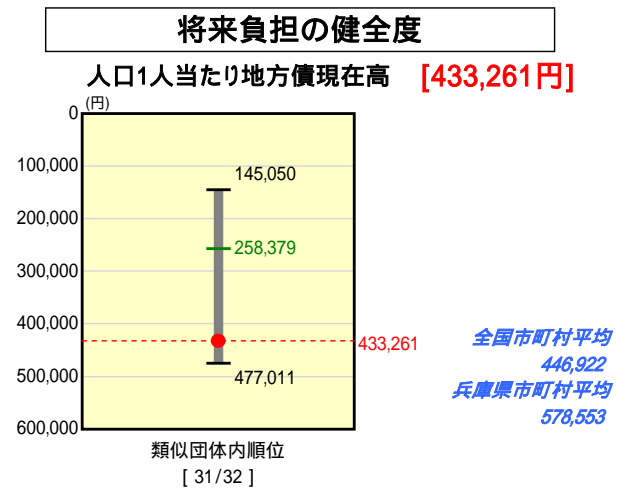
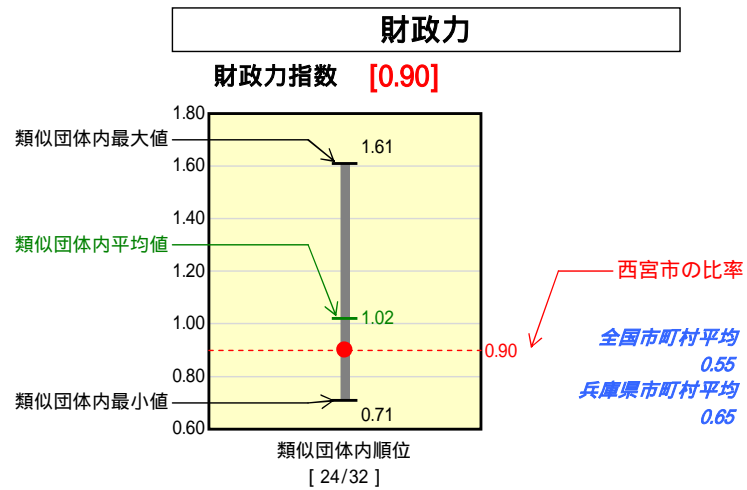


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

兵庫県 西宮市

人口	465,951	人(H20.3.31現在)
面積	99.96	km ²
歳入総額	148,612,137	千円
歳出総額	144,952,208	千円
実質収支	3,602,949	千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
ラスパイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

分析欄

財政力指数
震災後の平成8年度以降は普通交付税の交付団体となり(10年度のみ不交付)、その後も景気低迷による市税収入の減等により、地方交付税への依存度が高くなってきた。市税収入は、ここ3年では毎年20億円を超える前年度比増となっているが、今後は景気悪化の影響が見込まれるため、引き続き税収の徴収率向上対策等により一層の改善を図る。

経常収支比率
地方譲与税の減等により前年度(95.6%)より1.3%悪化している。また、公債費が依然高い水準にあることから、類似団体に比べ財政の弾力性が失われている。引き続き、内部管理経費及び事業・施策の見直し等により歳出の抑制を図るとともに、歳入確保に努め、改善を図る。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額
類似団体平均に比較して高くなっているのは、人口に対する職員数割合及び年齢構成の違いなど諸々の要因が考えられる。今後とも大都市圏といった市の実情を勘案する中で、アウトソーシングや非正規職員の活用等により人件費の抑制に努める。

人口1人当たり地方債現在高
震災に伴う復旧・復興事業を推進するため、多額の市債を発行したことにより地方債現在高は大幅に増加し、ピーク時の平成10年度末には震災前の3倍以上となった。その後は減少に転じ、9年間で1,100億円を超える減額を行えたが、依然として高い水準にあるため、新規の地方債発行額等の精査により、少しでも早期に震災前の水準に近づけるよう改善を図る。

実質公債費比率
震災復興に係る市債の償還により公債費が増加していることに加え、下水道事業などの公営企業債の償還に係る経費や、債務負担行為に関する経費等も影響して高水準にあり、類似団体平均を大きく上回っている。しかし、公債費が、ピーク期を過ぎ徐々に減少することから、今後、比率の低下が見込まれる。

人口1,000人当たり職員数
平成22年4月1日における職員数について、平成17年4月1日現在の職員数に対して、新地方行革指針(総務省)に掲げられている4.6%減を上回る数値目標として、183人(4.9%)の削減を図ることを目標とする。

ラスパイレス指数
第3次行政改善実施計画に基づく給料減額(8%~2%)の実施により、類似団体の中では低い水準にある。給与構造の改革のなかで、給料表の構成や各手当等について常に点検を行うことで、より一層市民に理解される給与水準となるよう努める。